令和８年度　古賀市立花鶴小学校　学校経営要綱

Ⅰ　学校経営の基本構想

１　本校経営の基盤

（１）公教育の立場に立つ学校
・日本国憲法、教育基本法及び学校教育法の理念に基づき、学習指導要領に準拠した教育課程、福岡県教育施策・古賀市教育施策・学校管理規則に則る学校教育を行う。

（２）現代社会の要請に応える学校
・社会の変化に自ら対応できる心豊かな人間の育成を目指して教育を行う。
・人権尊重の精神の涵養、基礎・基本的内容の定着、一人ひとりの個性やよさを生かす教育を行う。

（３）地域や児童の実態を生かす学校
・本校教育の実績・伝統を尊重し、人権・同和教育を基盤とした新たな校風づくりを行う。
・地域のよさを生かした学習を重視すると共に、学校・家庭・地域が連携した協働教育を行う。

２　学校の教育目標

「志高く、未来を創造する子どもの育成」

【学校の教育目標に対する校長の見解】

○「志高く」とは、単なる「将来の夢」よりも一歩踏み込んだ「社会のため、人のため、あるいは自己の実現のため」に、心に決めた目的をもつことである。自分の限界を設けず、広い視野をもって理想を掲げ、高みを目指し続ける姿勢を指す。
○「未来を創造する」とは、既存の正解をなぞるのではなく、変化する社会の中で自ら問いを見出し、新しい価値を生み出すことである。
○「志高く、未来を創造する子ども」とは、「志」を胸に、創造的な知性を磨き、未来へ踏み出す行動力をもって、社会の形成者として生きる姿である。子ども一人ひとりが、社会を単に受け身で捉えるのではなく、自らの意思と力によってよりよい明日を築こうとする主体的な姿勢を目指すものである。

AI の進化やパンデミックなど、予測困難な事態が次々と起こる現代社会において、知識の量以上に重要となるのが、数値化できない内面の力、すなわち「非認知能力」である。多様で複雑な社会では、心理的・社会的なストレスや逆境が避けられない。それらをしなやかに乗り越え、心身のバランスを回復する力である「レジリエンス」を育むことは、子どもたちが生涯にわたって学び続け、挑戦し続けるための不可欠な基盤となる。非認知能力の根幹をなすのは、揺るぎない「自尊感情」である。地域のひと・もの・こととの深い関わりを通じ、「自分が大切にされている」という実感と、「自分にできることで役に立ちたい」という地域への愛着を育む。この成功体験と所属感の積み重ねが、他者との比較ではない「自分らしさ（アイデンティティ）」の確立へとつながり、困難に立ち向かう心の弾力性を生むのである。

これらの資質・能力を具現化するため、本校では「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な授業改善を推進する。すべての子が「わかる」「できる」を実感する授業づくりは、まさに自己効力感を高める非認知能力の育成そのものである。日常的な授業の中で、子どもの主体性を引き出し、多様な他者と対話しながら解決策を見出す経験を積むことで、知性と内面の両面から「未来を創造する力」を強化していく。さらに、本校の教育目標を具現化する日常の姿として、以下の三つの活動を推進する。

【志を拓く挨拶】：自分から心を開き、人とつながろうとする勇気を育てる。
【響き合う歌声】：感性を研ぎ澄ませ、仲間と新しい価値を創造する喜びを味わうことができるようにする。
【未来を灯す笑顔】：自己を肯定し、困難を乗り越えて明るい未来を築く活力を養う。

3　具体目標

(1)目指す児童像

【徳:やさしい子】自他のよさや可能性を認め合い、互いに支え合う子
- ○時と場に応じた気持ちのよい挨拶ができる子　【教師・児童の自己評価３．５】
- ○相手を大切にする言葉遣いができる子　【教師・児童の自己評価３．５】
- ○自他のよさや頑張りに気付くことができる子　【教師・児童の自己評価３．５】

【知:かしこい子】　学ぶ意欲をもって他者と対話し、自分の考えを深める子
- ○人の話をよく聴き、反応する子　【教師・児童の自己評価３．５】
- ○活発に話し合い、協働で考えを深める子　【教師・児童の自己評価３．５】
- ○進んで読書に親しむ子　【教師・児童の自己評価３．２】

【体:たくましい子】自己の目標の実現に努め、挑戦したり粘り強く取り組んだりする子
- ○目標に向かって、取り組み続ける子　【教師・児童の自己評価３．５】
- ○黙々と時間いっぱい体を動かし掃除をする子　【教師・児童の自己評価３．５】
- ○けがや事故などから自分を守る行動ができる子　【教師・児童の自己評価３．５】

(2)目指す学校像

○地域社会とつながる学校
- ・「ひと・もの・こと」との繋がりを大切にした「行かせたい・応援したい」学校

○学び合い、響き合う学校
- ・主体的に学び合う意欲に満ち、「わかる、できる」が実感できる学校
- ・歌声が響き合う学校

○明るく健やかな学校
- ・気持ちのよい挨拶があふれ、笑顔いっぱいの活気ある学校
- ・校内美化が行き届いた学習環境の整った学校
- ・子どもの個性が生き、互いを認め合い、大切にする学校

○大人も子どもも行きたくなる学校
- ・働きがい、学び合いがある学校
- ・安心、安全な居場所がある学校

(3)目指す教師像

「教師は、子どもにとって最大の環境である」ことを自覚し、率先垂範する教師
～組織は、トップの器以上には育たない～

【教師エージェンシー（よりよい未来の創造に向けた変革を呼び起こす３つの力）の追求】

①自律的に学び続ける力「自らアップデートし、教育に情熱を注ぐ姿」
- ・ 変化や挑戦を恐れず専門職として学び続け、「教える」から「学びを起こす」授業改善を追求する。
- ・ 法令を遵守し、高い倫理観と接遇態度をもって、自らを律し行動する。
- ・ 子どものよさや可能性を信じ、熱意をもって教育活動にあたる。

②新たな課題に対応できる力「変化を捉え、子ども一人ひとりに最適解を求める姿」
- ・ 子どもを一人の個性として尊重し、その最善の支援（子ども理解）を考え続ける。
- ・ 子どもや保護者の願いを真摯に受け止め、誠実な対応を通じて強固な信頼関係を構築する。
- ・ 危機管理意識を常に高くもち、子どもの安心・安全を最優先に守り抜く。

③組織的・協働的に解決する力「チームの力を最大化し、共に高め合う姿」

・ 学校経営目標の具現化に向け、学年・分掌の枠を超えて主体的・創造的に参画する。
・ 経験や年齢を問わず、相手への尊重と礼節を重んじ、互いに切磋琢磨する。
・ 「報告・連絡・相談」を徹底し、組織としてのチーム力を発揮して課題を解決する。

《危機管理意識の向上》
「危機対応のさしすせそ」
さ：最悪の結果を想定して　**し**：親身な対応　**す**：素早く対応　**せ**：責任をもって
そ：組織で対応

4　本校教育の課題

（1）教育課題　　～児童・教員に解決を期待する課題～

○児童一人ひとりの人権意識の高揚
○自己実現に向けて、つまずいても粘り強くやり遂げる子どもの育成
○教育活動における意思決定の場面、自己決定と遂行、成功体験の保障と発言力の育成
○低学力層の改善を核とした学力向上　　評定1の層5%減(昨年度比)、二極化の回避

（2）経営課題　　～学校組織として解決したい課題～

○学習指導法、学習規律（学び方）の共通理解と徹底
○特別支援学級担任と通常の学級担任の連携（児童実態や指導法の共通理解）の充実
○学年主任とプロジェクトリーダーを中核とした取組の共有（周知徹底）と実践、評価、改善サイクル
○地域を巻き込んだ「ひと・もの・こと」の、積極的かつ柔軟な開拓・調整・活用
○働き方改革を踏まえた取組の軽重づけと**発想の転換**
（行事精選や簡素化においてもできる、子どもの活躍の場づくりの創造）

Ⅱ　令和8年度の重点目標及び経営の重点

1　本年度の重点目標

挨拶・歌声・笑顔いっぱい花鶴っ子の育成

学校の教育目標と目指す児童像との関連

「挨拶」･･･心を開き、他者を尊重する「志(徳)」
「歌声」･･･感性を磨き、表現力を高める「創造(知)」
「笑顔」･･･心身の健康と、みなぎる活力「未来(体)」

2　重点目標(教育目標)達成のための経営の重点

○学年主任者会をはじめとする分掌組織（プロジェクト会議）における重点目標の評価・改善の充実
○すべての子どもの可能性を引き出し、自己肯定感を高める教育活動と指導法の工夫（ユニバーサルデザインの視点を生かした授業改善）
○子どもの非認知能力を育成する教育課程の編成
○業務の効率化を図り、子どもと向き合う時間の確保と教育の質を高める働き方の定着
○目的を共有し、決めたことが教室の隅々まで実践される組織力の向上

３ 重点目標(教育目標)達成のための具体的方策

（１）３プロジェクト会議（徳育、体育、知育）の機能化

※　２か月に１回、各部会の目指す児童像に照らした評価と改善を話し合う。

※　各分掌の提案内容の協議と支援を話し合う。

① 志・きずなプロジェクト（徳）･･･目指す子ども像の実現に向けた豊かな心と人権教育の取組の計画立案と推進

【具体的な取組】

○代表委員会を中心とした挨拶運動の取組の推進

・時と場に応じた挨拶、「相手の目を見て」「自分から先に」「立ち止まって」等レベルアップを図る。

○ほめ言葉のシャワーの取組

・大人から子どもへ、子どもから子どもへと広げていくことによって、子どもたちの自尊感情を一層育み、非認知能力を高める。教師は、子ども理解に基づき、適切なほめ言葉を増やし、よいところを見つけ称賛する見方や考え方を示す。

○人権教育と道徳教育

・価値理解をもとにした納得解を見出す**「考え議論する道徳科」への授業改善**

・排育学習（１、２年）し尿処理学習（４年）歴史学習（６年）は、人権教育として一般研に位置付ける。

・年に１回人権参観を実施し、児童の人権感覚・人権意識の高揚を図る。

・被爆くすの木を活用した**平和教育の充実と推進。（６年生：被爆体験者による講話を実施）**

・人権教育の視点に立ついじめ防止基本方針に基づいたいじめ防止対策委員会の充実

○学級活動の充実

・自主的・実践的な力を伸ばす年間 12～17 時間の学級活動(1)の実施と係・集会活動の充実

・学級会の基本的な進め方の共通理解

・支持的風土の醸成を意識した学級会の取組

・話し合いの決まりを明確にし、どの子どもも発言できる学級環境づくりに努める。

・子どもの学級の一員として「参加した」という実感を味わう場と捉え、支持的風土醸成の核となるよう取組を進める。

○いじめ、不登校、虐待の早期発見と確実な対応及び教育相談の充実

・生活アンケート、生活多面調査等の確実な実施と、対応１００％

・ＳＳＷ、ＳＣ、民生委員、教育支援センターなど関係機関との積極的な相談及び連携の推進

・「こころとからだの天気」の有効活用（週に１回以上、長期休業明け１週間は毎日）

・ステップルームの効果的な活用とケース会議の組織的な運営

② すこやかプロジェクト･･･目指す子ども像の実現に向けたたくましい心と体づくりの取組の計画立案と推進

【具体的な取組】

○立腰姿勢の徹底（姿勢タイムの継続）

○体育科の授業において、２０分以上の運動量確保と時間走の位置付け

○運動の日常化に向けた取組（体育委員会を中心とした運動に親しむ取組の推進）

○体力アップシートの活用やスポコン広場の促進

○黙働掃除の仕方の徹底

○自分の命は自分で守ることや、他の命を守るための安全行動の徹底（避難訓練、集団下校、SOSの発信等）

○熱中症対策および感染症対策等の徹底

○アレルギー対応の徹底

③ 学び創造プロジェクト・・・目指す子ども像の実現に向けた学力向上の取組の計画立案と推進

【具体的な取組】

○花鶴小「学び方の基本」の充実と徹底・・・授業時の構え（身、物、心）の徹底

○ユニバーサルデザインの視点（すべての子が学びやすい手立て）を取り入れた授業改善

○少人数指導・習熟度別学習等による、基礎的な知識・技能の粘り強い指導

○ノートの書き方の指導の徹底

○ICT 活用の場面や方法の多様化

○ 互見授業の積極的な実施

・ 教師だけでなく、子ども同士が学ぶ姿を互いに見合う場の推奨

○朝の活動や読書ボランティア、図書委員会等による読書活動の推進

○朝の活動に位置付けた「歌声いっぱい」と「歌声集会」の推進

（2）校内研究の充実

①主題研究 ･･･研究の日常化を図るために留意すること

すべての子どもが「わかる」「できる」を実感する学習指導の構築に向けて次の取組について研究を深める。児童が「わかる」「できる」を実感するためには、学習に対して主体的にかかわろうとする意欲が大切である。そのために、単元構成や一単位時間の授業づくりにおいて、児童の自己調整力を高める工夫が必要となる。

【本校における自己調整力とは】

子どもが自分の学びを自分でコントロールし、「目標設定→学習方法の選択→実行→振り返り」を繰り返しながら成長していく力のことである。

【具体的な方策の例】

※自己調整力を高める視点からの単元構成と授業づくり

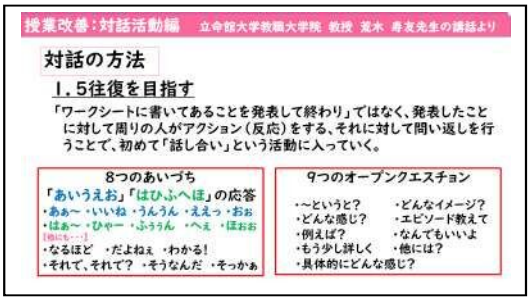
・単元や本時授業の初めに目標や見通しをもつことができるようにする。

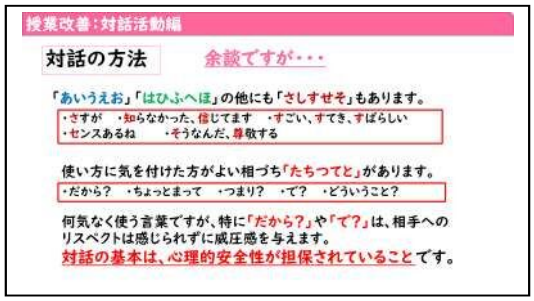
※「問い」を立て、最適解を見出す力の育成

・学習意欲を喚起する「問い」のもたせ方の工夫

・学習方法や課題など選択することができるようにする。

※「対話的」な学び…子ども同士で尋ね合ったり折り合いをつけたりする交流の在り方
言語による往還が繰り返され、新たな考えや価値を創造する力





【対話活動の充実に向けた指導法の事例】

自分の考えを図・動作・言葉で表現し（方法としてのICT活用）、対話活動（ペア、同質集団、異質集団など）によって、さらに自分の考えを付加修正強化し、学習内容の理解を深めることができるようにする。

※「振り返り」による学びの意識化

【振り返りの例】	
○学習の内容について	「この授業で何を学んだか」→感想にとどまらず変化に気付く
○学びの活用について	「今日の授業で自分がこれから生かしたいことは何か」 「解決しなかったこと（もっと考えたいこと）は何か」
○他者からの学びについて	影響を受けた友だちの考え

②一般研修：教科の本質をとらえた指導力と危機管理意識の向上を目指す研修

○ 教科指導法等の研修

・ 放課後の時間を生かした「学びたい」「教えたい」を実現する主体的な研修の実施

・ 自薦、他薦によるそれぞれの特徴教科や得意分野を生かした OJT 研修

○ 古賀市教育課題１､2 年排育教育の確実な実施と４年し尿処理学習、６年歴史学習の授業公開

○ 危機管理研修

（３）特別支援教育委員会による配慮を要する子等のケース会議や情報共有

○交流学級と特別支援学級、通級指導教室における指導の連携を図る学年会での情報共有

○子どもや保護者のニーズ、合理的配慮を反映させた個別の指導計画、教育支援計画に基づくきめ細やかな指導

○配慮を要する子への支援の充実を図るケース会議と、関係機関との連携による組織的な対応の実施

Ⅲ 重点目標達成のための組織運営、研修、家庭・地域との連携

（１） 組織運営の工夫

<u>○子どものレジリエンスを実現する場づくりと環境づくりに向けて</u>

・安心・安全な場・・・一人ひとりの違いが認められ、尊重されていること
試行錯誤ができる、失敗にも価値がある（失敗から学ぶことができる）

・ほめて鍛える場・・・ほめて意欲を喚起し、少し頑張ればできる目標を設定し、その努力する過程を認めながら、成功体験を積んでいく。

① 児童の意欲を喚起する環境構成の工夫や、教室等の整理整頓（美しい環境づくり）

・学びや学級づくりの足跡や学級活動コーナーの充実、温かなコメントのある作品掲示

・資料センターとしての図書館の環境整備の充実

・元気に外で遊ぶことのできる安全な活動の場の整備および施設管理

② <u>教師エージェンシーの支援</u>

・３つの力（自律・対応・協働）を組織として引き出すための**対話が生まれる校内研修の充実**

・**「チーム花鶴小：１０の目標」の文化醸成：よさを認め合い尊重しつつ切磋琢磨する職場環境づくり**

③ 教育の深化を図る外部との連携（コミュニティ・スクールの充実）

・学校運営協議会との連携と活用　→子どもたちとの協働的な活動の創造

・地域人材バンクの積極的な活用
→保護者および地域の方による学習支援（○付けボランティア）、およびＧＴを計画的に活用する。

④ 教育効果を高める放課後の時間の有効活用促進等による働き方改革の推進

・業務改善の視点をもち、放課後の時間を意図的・計画的に有効に活用する。

⑤ 専科および教科担任制等による負担軽減

・専科の活用による持ちコマ数の平均化（全学年およそ週２２～２６コマ）←要改善
　令和８年度の教科担任制加配（理科、外国語）
・各学年教科担任制の積極的な実施（開かれた学年・学級づくり）
・「朝の会」「給食指導」「清掃指導」等の時間の継続的な担任交換（チーム担任制）の試験的導入

（２）地域連携活動の推進

○ 地域連携の視点による教育課程の確認、見直し

各学年の年間指導計画（月別概要）を地域連携の視点から見直し、生活科・総合・社会科等での地域資源活用を明確化する。

本校は自然（花鶴川・鹿部山）・社会（鹿部田淵遺跡・古賀市役所・古賀神社・ＪＲ古賀駅・ＪＲししぶ駅・古賀市食品加工団地・国道３号線・リーパスプラザこが等）・人的（豊富な地域人財）環境に恵まれた地域でもある。そこで、それらの豊かな環境を生かして学習を行うことは、自分の住んでいる街への愛着を深めていくことができるとともに、「ふるさと古賀」のために、自分ができることで役に立ちたいという自己有用感を育むことができると考える。これらの意義を踏まえ、各学年の生活科・社会科・総合的な学習の時間の学習を探求的な学習となるように編成していく。

（３）教師力(授業力)の向上のための各種研修

○ 外部研修の充実

・各種研究会、県教育センター講座等の校外研修等へ積極的な参加を奨励（但し校内調整必要）
・若年研修２年または３年目は「糟屋地区教育論文」、次年は「県教育論文」執筆の奨励。
・教科等研究会や教育懇談会等への主体的な参加による自己研鑽の推奨